

2025-11

学 会 通 信

令和 07 年 11 月 15 日

NO.101

工 業 経 営 研 究 学 会

Association for the Study of
Industrial Management (Japan)

第 40 回全国大会開催報告

第 40 回 全国大会実行委員長
坂井 俊文

工業経営研究学会第 40 回全国大会は、2025 年 8 月 29 日（金）から 8 月 31 日（日）にかけて、北海道科学大学にて開催されました。2014 年以来、11 年ぶりの札幌での対面開催となり、第 40 回の記念大会となることから 40 名を超える会員から事前に大会参加登録をいただきました。しかしながら、昨今のインバウンド等の観光入り込み客数増加の影響、加えて北海道マラソンの開催日と日程が重なり宿泊施設の高騰もあり参加者の皆様にはご負担をお掛けした状況になりました。

8 月 29 日（金）午後には、倒木による JR の遅延というアクシデントがあったものの株式会社ダイナックス（千歳市）のご協力のもと、工場見学会を開催いたしました。株式会社ダイナックスは地方にありながら直接、製造拠点・市場をグローバルに展開する、電動化製品や摩擦制御技術が強みとした製品と市場の開発に積極的に挑戦する企業です。中でも、特に「オートマチック・トランスミッション（AT）の摩擦材」に強みを持っており、「工場見学（千歳工場）と GX・DX の取組み」について大変熱心にご説明いただきながら、見学させていただきました。施設見学後の質疑応答においても、様々な質問が出て、大変充実した工場見学会となりました。

工業経営研究学会中瀬哲史会長（大阪公立大学）より株式会社ダイナックス代表取締役社長小川真殿へ、経営の先進性を高く評価するとともに、工業経営研究への協力に感謝して「生産経営賞」の表彰状贈呈がされました。

8 月 30 日（土）は、午前には開会式において、中村真悟事務局長（立命館大学）の司会により、中瀬哲史会長の開会宣言、第 41 回全国大会開催校である中京大学の浜田敦也氏による次期開催校挨拶をいただきました。次に今回の開催校である第 40 回全国大会実行委員長の坂井俊文（北海道科学大学）から来場いただきました御礼をお伝えさせていただきました。その後、3 会場に分かれて 9 組の自由論題報告の後、午後にグローバリゼーション研究分科会と、環境経営学研究分科会による分科会報告が開催されました。各会場では、工業経営について、様々な切り口から研究報告がなされて、報告者、司会者、フロアの間で活発な議論が展開されました。なお、自由論題の各報告の司会者、報告者、報告タイトルにつきましては、「全国大会報告概要」をご覧ください。午後は研究分科会報告、廣原大樹氏（MONET Technologies 株式会社）によるテーマを「MaaS から始まるデジタル化と DX」と題した特別講演を司会に中山健一郎氏（札幌大学）として、会員総会、懇親会をそれぞれ開催いたしました。

懇親会には、北海道らしさを求めて、サッポロビール園を会場に 30 名の会員が参加し、ジンギスカンと醸造したてのビールに舌鼓を打ちながら楽しい懇親が図られました。その後の歓談では、廣原大樹氏にもご参加いただきまして、会員間相互との交流が図られ、名残惜しみつつも懇親会は閉会となりました。

8月31日(土)は、午前中に統一論題報告の3報告、午後に、コメンテーターからのコメントを受け、各報告者からのリプライ、フロアとの質疑応答をし閉会式を行いました。

午前の統一論題報告では、第40回全国大会のテーマである「DX・GXはものづくり経営をどう変えるか」の下で、西村成弘氏(神戸大学)を司会者に、最初に牧良明氏(プログラム委員長・大阪公立大学)による趣旨説明が行われました。続いて、第1報告として鈴木貴大氏(日本大学)による「日本におけるGXの展望と課題ー従来の環境対応との相違点に焦点を当ててー」、第2報告として徳田美智氏(倉敷芸術科学大学)による「DXが可能にする製造企業の価値創造に向けてー顧客との接点に着目したビジネスモデルへの転換ー」、第3報告として長岡正氏(札幌学院大学)による「モノづくり経営における物流会計の課題」の各報告が行われました。

午後は、コメンテーターコメントとして山田雅俊氏(駒澤大学)がそれぞれのコメントしたうえで、統一論題の各報告者がリプライしました。その後、西村氏の司会により、鈴木氏・徳田氏・長岡氏をパネリストとして討論が展開されるとともに、フロアからの質疑応答も実施され、「DX・GXはものづくり経営をどう変えるか」をテーマとして熱い議論が展開されました。最後に、西村氏による統一論題の「まとめ」が行われて、午前から合わせて4時間以上にわたる統一論題は幕を閉じました。

閉会式では、中瀬哲史会長のご挨拶をいただき盛会に終了いたしました。

第40回全国大会には8月30日と8月31日の2日間で40名以上の会員の皆様にお越しいただきました。各会場で活発な議論が交わされて、無事にすべてのプログラムを終えることができました。若干の不手際もございましたが、皆様のご協力により第40回全国大会は成功したと感じております。ご参加いただきました会員の皆様、各報告でご報告いただいた会員の皆様、司会やコメンテーターをお引き受けいただいた会員の皆様、大会開催をご支援いただいたプログラム委員会の牧良明委員長をはじめとしたプログラム委員会の皆様には、あらためましてこの場を借りて御礼申し上げます。

投稿論文募集のお知らせ(学会誌 第40巻 第2号)

学会誌編集委員会委員長

田中 史人

2026年9月末発行予定の第40巻第2号への投稿論文を募集します。会員の先生方には、積極的に論文のご投稿をお願いいたします。募集期間と原稿送付先は、次の通りです。

また、調査報告、書評なども広く募集しております。調査報告、書評などは随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。加えまして、先生方がご出版された書籍などの情報もお寄せいただければ幸いです。

■募集期間

2025年11月1日～2026年4月末日まで【必着・厳守】

投稿論文受信後、数日以内に受信確認のメールをご送信いたします。

また、正式な論文受理のご連絡は、募集期間終了後、投稿資格などを確認し、10日間程度でご連絡いたします。編集委員会より上記の連絡がない場合は、必ず原稿送付先のメールアドレスにお問い合わせください。

尚、論文審査は、募集締め切り後にまとめて実施します。

■原稿送付先(「学会誌編集委員会」宛)

メールアドレス： editor13th@asimj.sakura.ne.jp

尚、送付いただくのは、論文の原稿 (Word および PDF のデータファイル) と申請書の 3 つのファイルです。

また、投稿上のご質問などに関しましても、上記までお問い合わせください。

■学会電子化に伴う変更について

第 38 巻第 1・2 合併号より学会誌が電子化され、それに伴い、以下の諸規定が変更となっており、ご確認、ご了承いただいた上で、ご投稿をお願いいたします。

※工業経営研究学会内規

第 10 条 (7) 学会誌は並行して電子化を行い、J-STAGE を利用する。公開は発行から半年後とする。

第 17 条 学会誌が電子化されるに際し、学会誌掲載の論文の著作権は本学会に帰属する。

※『工業経営研究』投稿規定

第 10 条 本会は機関誌『工業経営研究』を電子化する。本誌への投稿者は、掲載された論文が半年後に電子化・公開されることを了承したものとする。

【投稿上の注意】 (よくお読みいただいたうえ、ご投稿ください。)

- ・招待論文を除き、論文はすべて査読付となります。
- ・ホームページ掲載のテンプレートにしたがってご執筆いただきます。テンプレートは、最新のものをダウンロードしてお使いください。また、テンプレートの他、**投稿規定・執筆細則・投稿申請書**は、下記の学会ホームページに掲載してあります。**よくお読みいただき、ご投稿ください。**
http://asimj.jp/wordpress/?page_id=1307
- ・アブストラクトは、200 ワード以内、キーワードは、5 ワードまで記入をしてください。
- ・論文原稿ファイル (Word と Pdf) の書式について、正しく、崩れていないことをご確認の上、ご投稿をお願いします。
- ・掲載が決定し、最終原稿を投稿していただいたあとの**校正はありません**。
最終原稿は、修正を必要としない**完成原稿での投稿**をお願いいたします。

以上

「学会賞・研究奨励賞・若手研究者賞」候補作品の募集

会員表彰選考審査委員会委員長
藤野 真

本学会「内規」第 14 条により、2026 年度の学会賞 (年齢制限なし)・研究奨励賞 (31 歳以上 39 歳まで[10 月 1 日現在])・若手研究者賞 (30 歳以下[刊行時点]) の候補作品の推薦を、2026 年 4 月末日までに

藤野真理事（会員表彰選考審査委員会委員長、makoto@fukuoka-u.ac.jp）または学会事務局宛（nshingo@fc.ritsumei.ac.jp）にお知らせください。自薦・他薦を問いません。なお、会員表彰推薦書の様式は学会ホームページに掲載されているものをダウンロードしてご利用ください。

第 41 回全国大会のお知らせ

大会プログラム委員長
牧 良明

第 41 回全国大会は、中京大学にて行う予定です。大会開催日、理事会の日程は確定次第、学会ホームページにて掲載いたします。

第 13 期 2025 年度第 40 回総会報告

日 時：2025 年 8 月 30 日（土）15 時 10 分～16 時 00 分

場 所：北海道科学大学

【報告事項】

【各委員会】

1. 学会誌編集委員会(田中)

- ・ 38 巻第 2 号を 2025 年 3 月に j-stage へアップロードしたことが報告された。
- ・ 39 巻第 1 号は 2025 年 3 月に刊行される予定であったが、遅れて 5 月に刊行されたことが報告された。
- ・ 2025 年 9 月に 39 巻第 1 号の論文と書評がアップロード予定であることが報告された。
- ・ 39 巻第 2 号は 2026 年 9 月に刊行予定であることが報告された。

2. 論文審査運営委員会(島内)

- ・ 39 巻第 2 号への投稿論文が 4 本審査を通過し、刊行の予定である。

3. 会員表彰選考審査委員会(藤野)（事務局代読）

- ・ 本年度は、学会賞、研究奨励賞、若手研究者賞のいずれについても、審査対象となる研究業績が推薦されず、該当者はいなかった。

4. 規定改定、学会活動記録委員会(藤原)（事務局代読）

- ・ 大会プログラム委員会について検討を行ったことが報告された。

5. 大会プログラム委員会(牧)

- ・ 大会開催に至るまでの活動について報告がなされた。

6. 産学交流委員会(中瀬)

- ・ ダイキン工業株式会社堺製作所、株式会社ダイナックス代表取締役小川真氏に対し、生産経営賞を贈呈し

たことが報告された。

7. 学会ホームページ・関連学会調査委員会(中島)

- ・ホームページ改訂を検討中であることが報告された。

8. 事務局(中村)

- ・会員数について以下の報告がなされた。
- ・正会員 192 名、院生会員 27 名、シニア会員 6 名、名誉会員 11 名、会員総数 236 名であることが報告された。
- ・構成人数が少なく部会費で活動を十分に賄うことが困難である北海道部会に対して、今後の活動活性化を意図して 2 万円を支給したことが報告された。

【部会・研究部会】

1. 東日本部会（中島）

- ・3 月 28 日に研究会とベアードビールの工場見学会が行われたことについて報告された。

2. 西日本部会（田口）

- ・7 月 19 日工場見学会工場見学会として、オムロン京都太陽株式会社へ訪問し、生産経営賞を授与することが報告された。
- ・7 月 20 日に研究会を行ったことが報告された。

3. 北海道部会（中山）

- ・部会活性化のための予算の使い方について報告された。

4. グローバリゼーション研究分科会（那須野）

- ・ワーキングペーパーの発行、インド視察の活動について報告がなされた。

【審議事項】

1. 2024 年度会計決算（中島）（黒澤）

- ・中島会計担当理事より、配布資料に基づき、決算書の収入と支出、および貸借対照表の借方と貸方の金額について報告がなされた。
- ・収入の部の決算額が 5,716,302 円であることが報告された。
 - ・2025 年は学会費の請求が遅かったことから前年よりも収入が少なくなっているが、来年には例年の水準となる見込みであることが報告された。
- ・支出の部の決算額が 1,949,753 円であること、次期繰越金が 3,766,549 円となることが報告された。
 - ・前年大会が台風によりハイブリッド開催となったため郵送での選挙となり、これに伴う学会事務委託費や郵便通信費などが増加していること、j-stage 搭載料がかかるようになったこと、積立金の計上漏れがあったこと等により予算との差が生まれていることが報告された。積立金については、来期に今期分を合わせて計上予定であることが報告された。
- ・黒澤会計監事より、決算の監査報告に関して、通帳や領収書を確認し、間違いがないことが報告された。
- ・会計の執行に関して、以下の点について検討の必要性があることが報告された。
 - ・会費請求の時期を早めることの検討
 - ・名簿作成積立金を廃止する方向の検討
- ・以上の会計決算について、会員からの承認がなされた。

2. 名簿作成積立金に関する提案（中島）

- ・名簿作成積立金を廃止し特別事業積立金へと振り替えることが提案された。
- ・以上の提案について、会員からの承認がなされた。

3. 2025 年度会計予算案（中島）

- ・中島会計担当理事より、2025 年度会計予算案について報告がなされた。
- ・前期収入の部の予算が 1,529,150 円であり、前期繰越金が 3,766,549 円であり、合計 5,295,699 円であることが報告された。
- ・支出の部の予算額が 2,500,000 円であり、次期繰越金が 2,795,699 円であることが報告された。
- ・以上の予算の内容について、会員の承認がなされた。

4. 会長よりプログラム委員会の位置づけについての提案（中瀬）

- ・プログラム委員会の位置づけについて、理事会で今後検討していくことが会長より提案された。
- ・以上の会長提案について、会員の承認がなされた。

5. 事務局よりワーキンググループ、委員会設置、入会手続き変更についての提案（中村）

- ・「分科会・部会活動支援のあり方に関するワーキンググループ」設置の提案
- ・財政検討委員会設置の提案
- ・入会手続き変更（電子押印の承認）の提案
- ・以上の事務局提案について、会員の承認がなされた。

【会長】（中瀬）

- ・次回の全国大会は中京大学で開催される予定であることが報告された。

会員異動の報告（2025. 4～2025. 10）

【入会者】（敬称略）

「正会員」

「院生会員」 鵜飼 望（関西学院大学）
鵜丹谷 瑛（神戸大学）
阮 凌鋒（神戸大学）

【退会者】（敬称略）

「正会員」 杉村 光二（サミット・ラボ）

中川誠士（福岡大学）
中園 宏幸（関西大学）
劉 道学（浙江工業大学中国中小企業研究院）

メール登録・更新のお願い

現在、学会通信をはじめ学会に関する情報はメール配信を基本としております。9割方の会員の皆さまはメール配信で情報を届けることが出来ております。また、2022年9月8日の総会で承認されたように、現在、学会誌の電子化への移行を準備しております。**学会誌の電子化に伴い、紙媒体の学会誌の発行がなくなります。**

今後、会員メーリングリストがますます重要な連絡方法になるため、メールアドレスを登録していない会員の皆様、登録しているメールアドレスが失効している会員の皆様は、改めてメールアドレスの登録をお願いする次第です。マイページにアクセスし会員情報を変更していただくか、下記の要領で工業経営研究学会会員窓口（asimj-post@as.bunken.co.jp）へ連絡いただきますようお願い致します。

- ・送信先メールアドレス：asimj-post@as.bunken.co.jp
- ・件名：登録メールアドレス
- ・メール本文：会員氏名および登録メールアドレス

異動時の会員情報更新のお願い

所属先、住所、メールアドレス等、会員情報に変更が生じた場合、逐次更新して頂きますようお願い致します。なお「院生会員から正会員」への異動に関わって、会員の皆様からの連絡がない場合であっても、事務局より連絡させていただくことがございます。「正会員からシニア会員」への異動につきましては、会則に基づき本人からの申請・理事会での審議となっているため、事務局からの特段の連絡は致しません。会員種別につきましては工業経営研究学会会則第4条、会費につきましては工業経営研究学会内規第1条をご覧ください。

学会ホームページに会員専用ページ（マイページ）を公開しています。会員情報の確認・変更や会費納入状況の確認等をWEBから行うことができます。学会ホームページの「マイページ（会員専用ページ）」からログインし、変更が必要な情報は逐次更新お願いいたします。なお、ログインに必要な会員番号とパスワードは、会費請求時に記載されている会員専用のログイン情報をご確認ください。

工業経営研究学会会員窓口（〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター、Tel：03-6824-9373 Fax：03-5227-8631、E-mail：asimj-post@as.bunken.co.jp）にご連絡頂いても結構です。

工業経営研究学会 学会通信 101 号（25-11） 2025.11.15

発行人 中瀬 哲史 編集担当 中村 真悟

学会事務局 立命館大学経営学部 中村真悟研究室内

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150 立命館大学経営学部

Tel: 072-665-2090

E-Mail: n-shingo@fc.ritsumei.ac.jp、HP: <http://asimj.jp/>

工業経営研究学会 会員窓口（会費納入、住所管理、学会通信の郵送など）担当

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

Tel：03-6824-9373 Fax：03-5227-8631 E-mail：asimj-post@as.bunken.co.jp

※受付時間 平日 9:00～12:00、13:00～17:00（土日祝を除く）

